

ラクリファースト EX の使用経験. 第 39 回日本眼科手術学会学術総会. 福岡, 1 月.

- 19) Ogawa T, Shiba T, Tsuneoka H. (ASCRS Posters) Early outcomes with 3-piece 3-zone refractive multifocal IOL. 2015 ASCRS (American Society of Cataract and Refractive Surgery)・ASOA (American Society of Ophthalmic Administrators) Symposium & Congress. San Diego, Apr.
- 20) 堀口浩史. まぶしさの再考察. 第 7 回県央眼科研究会. 相模原, 4 月.

#### IV. 著 書

- 1) 敷島敬悟. 第 3 章: 各論 III. 眼窩腫瘍 D. 視神経鞘腫瘍. 大島浩一 (国立病院機構岡山医療センター), 後藤 浩 (東京医科大) 編. 知っておきたい眼腫瘍診療: 眼科臨床エキスパート. 東京: 医学書院, 2015: p.298-302.
- 2) 敷島敬悟. 第 3 章: 各論 V. 小児から若年者に発症しやすい疾患 D. 眼窩横紋筋肉腫. 大島浩一 (国立病院機構岡山医療センター), 後藤 浩 (東京医科大) 編. 知っておきたい眼腫瘍診療: 眼科臨床エキスパート. 東京: 医学書院, 2015: p.438-42.
- 3) 敷島敬悟. I. 症候とその治療 41. 視力障害. 市田公美<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>東京薬科大), 細山田真 (帝京大) 編. 薬学生のための新臨床医学: 症候および疾患とその治療. 第 2 版. 東京: 廣川書店, 2015. p.100-1.
- 4) 敷島敬悟. II. 疾患と薬物 第 13 章: 眼疾患 1. 眼疾患へのアプローチ. 市田公美<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>東京薬科大), 細山田真 (帝京大) 編. 薬学生のための新臨床医学: 症候および疾患とその治療. 第 2 版. 東京: 廣川書店, 2015. p.683-9.
- 5) 仲泊 聡. 7. 医療保障制度 視覚障害の認定と身体障害者福祉法. 鳥山佑一<sup>1)</sup>, 村田敏規<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>信州大) 編. 専門医のための眼科診療クオリファイ 23: 眼科診療と関連法規. 東京: 中山書店, 2015. p.206-12.

#### V. その他

- 1) 常岡 寛. Q. 結膜炎 (ウイルス性結膜炎). けんぽだより 2015; 夏: 10.
- 2) 常岡 寛. 白内障手術はいつする? 増える 40 代自己判断は禁物 目安は「生活に困り始めたら」. 日本経済新聞 2015 年 8 月 22 日朝刊 S7 面
- 3) 常岡 寛. 「慈眼会」について. 眼臨紀 2015; 8(10): 782-3.
- 4) 常岡 寛. 写真でみるあの医師の Home と Away. 眼科グラフィック 2015; 4(6): 621-3.
- 5) 常岡 寛. パネリスト. 教育的遠隔医療 3D ウェブライブ手術検討会. 東京, 11 月.

### 耳鼻咽喉科学講座

- |            |   |
|------------|---|
| 教 授: 小島 博己 | 中耳疾患の病態とその手術的治療, 頭頸部腫瘍の基礎的研究                |
| 教 授: 鴻 信義  | 鼻・副鼻腔疾患の病態と手術的治療                            |
| 准教授: 山本 裕  | 側頭骨外科, 中耳疾患の病態生理                            |
| 准教授: 波多野 篤 | 頭頸部腫瘍の画像診断, 手術療法                            |
| 准教授: 飯田 誠  | 鼻・副鼻腔疾患の病態と手術的治療, アレルギー疾患の基礎的研究             |
| 講 師: 松脇 由典 | 鼻・副鼻腔疾患の病態と手術的治療, 頭蓋底疾患の手術的治療, 好酸球性炎症の基礎的研究 |
| 講 師: 清野 洋一 | 頭頸部腫瘍, 頭頸部再建外科                              |
| 講 師: 浅香 大也 | 鼻・副鼻腔疾患の病態と手術的治療, 局所免疫応答の基礎的研究              |
| 講 師: 近澤 仁志 | めまい・平衡障害の治療, 中耳手術                           |
| 講 師: 飯村 慈朗 | 鼻・副鼻腔疾患の病態と手術的治療                            |
| 講 師: 福田 智美 | 中耳疾患 (真珠腫性中耳炎) 病態解明の基礎的研究                   |
| 講 師: 濱 孝憲  | 頭頸部腫瘍, 頭頸部再建外科                              |

#### 教育・研究概要

##### I. 耳科学領域

中耳粘膜再生の基礎的実験と臨床応用に向けての研究, 真珠腫遺残上皮を標的とした遺伝子治療の開発などを研究テーマの中心としている。細胞シート移植を用いた中耳粘膜再生治療の臨床応用をすでに開始しているが, 現在までに 4 例の真珠腫性中耳炎および癒着性中耳炎患者に細胞シート移植を施行, 現在その効果を評価中である。また当院で多数行っている真珠腫手術の検体をもとに遺伝子学的および免疫組織学的な基礎研究を多角的にすすめている。

中耳・側頭骨手術は年間およそ 250 例が行われている。慢性中耳炎, 癒着性中耳炎, 中耳真珠腫に対する豊富な手術件数と良好な治療成績は国内有数の

ものだが、それらの手術データベースの充実をはかり、特に真珠腫手術症例の病態、術式の検討、疫学調査、術後成績などを詳細に分析し、基礎的研究と有機的に結合できるようにしている。加えて新しいデバイスを用いた人工内耳手術の他、錐体部真珠腫、錐体部コレステリン肉芽腫、聴神経腫瘍などの側頭頭蓋底病変に対する頭蓋底手術にも積極的に対応しており、手術件数の増加は著しい。

中耳炎および難聴外来診療では現在8人の専門医のもと、毎週月曜日午後15時に専門外来を設け、術後患者の診察、経過観察およびデーターの管理を主に行っている。滲出性中耳炎外来は毎週火曜日午後15時に行われ、個々の患者の中耳換気能の評価を行い、それぞれの病状に見合った最適な治療法の選択を行っている。

神経耳科領域では、前庭誘発筋電位(c-VEMP, o-VEMP)による球形嚢や卵形嚢の耳石器の機能評価を行い、VEMPの有用性につき検討を行っている。特に原因不明の浮動性めまい症例や慢性めまい症例の病態把握、治療方針の決定への本検査の有用性を検討している。また、VEMPによる疾患別の耳石器の機能障害の割合やメニエール病の発作期と間欠期、病期に応じたVEMP異常の出現率なども検証している。

本年は、睡眠導入剤による転倒傾向を研究する目的で睡眠導入剤内服後の平衡機能や脳波、眠気の経過の実験を行い、現在データーの解析を行っている。また、多施設共同研究として新規発症のBPPVにおける持続性知覚性姿勢誘発ふらつき発症予測因子の解明(前向きコホート研究)の検討に参加している。

## II. 鼻科学領域

鼻副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻内手術(ESS)の症例および術後経過に関する前向き研究を行っている。ESSは関連病院も併せ、年間1,500例あまりを越え、手術時合併症、術後難治化に関わる因子、嗅覚障害の予後、自覚症状およびQOLの改善度、好酸球性副鼻腔炎また真菌性副鼻腔炎の有病率、などを中心に、詳細な検討を行い国内外の学会、論文に報告している。

頭蓋底疾患(下垂体腺腫、ラトケ嚢胞、頭蓋咽頭腫、鼻性髄液漏、錐体尖部コレステリン肉芽腫症)に対するナビゲーション支援内視鏡下鼻内手術を脳神経外科との協力のもと行っており、症例報告ならびに良好な治療成績を報告している。ナビゲーション手術の問題点であった、手術による構造の変化に

対応するために、CT画像の術中リアルタイム更新を全国に先駆けて導入し、その効果と適応について検討している。また鼻副鼻腔悪性腫瘍に対する低侵襲手術として経鼻内視鏡的アプローチによる腫瘍摘出術を、適応を厳密に評価したうえで施行し、良好な治療成績を報告している。

ESSの拡大適応と安全性の向上を目指し、立体内視鏡画像とステレオナビゲーションとを重畳表示させるハイテクナビゲーション手術を施行し、問題点・改良点を抽出した。現在、前方斜視鏡下に重畳表示ができるシステムを開発中である。

種々の嗅覚障害患者に対する病態究明と治療方法の開発を行なっている。とくに嗅覚障害者に対するアロマセラピーを用いたりナビリテーションは本邦で初めて試みられている治験であり、その効果が期待されている。また嗅上皮再生におけるインスリンシグナルの制御機構についてマウスを用いて解析している。

内視鏡下鼻副鼻腔手術のトレーニングプログラムを作成し、レジデントに実施して手技の向上に反映させた。さらにネット回線を利用した遠隔医療・遠隔トレーニングシステムを構築し、関連病院の教室員に対する画像読影、手術教育を行っている。

好酸球性鼻副鼻腔炎における疾患特異的遺伝子、創薬標的遺伝子の同定を目的として鼻粘膜や鼻ポリープのオミックス解析(ゲノム、エピゲノム、トランスクリプトーム、プロテオーム、メタボローム解析)を行っている。

スギ花粉症に対する新しい免疫療法の開発と臨床応用に取り組んでいる。特にスギ抗原に対する主要なT細胞エピトープを連結させたペプチドを米に発現させた花粉症緩和米のヒトに対する初めての臨床研究を行い、その有用性を報告している。またスギ花粉抗原をシャッフリング、分断化した花粉症治療米の免疫抑制誘導機構の解明について動物モデルを用いて解析している。

## III. 頭頸部外科学領域

当院における頭頸部癌治療は、1. 手術、2. RT(放射線治療)、3. CRT(放射線化学療法併用療法)を中心に行っている。その選択は、癌の局在、進行度、社会的背景、年齢、Performance Statusを考慮した上、頭頸部癌診療ガイドラインに沿った形で決定している。年間手術件数は悪性腫瘍約200件、良性腫瘍約120件にのぼる。そのうち嚥下、構音、形態等の機能保持を目的とした遊離皮弁移植を用いた再建術も70件ほどになる。また悪性腫瘍に

対する放射線治療も年間 200 件ほど行っている。頭頸部腫瘍にたずさわる関係各科との定期的なカンファレンスを通じて安全かつ確実な医療の提供を念頭に置き診療している。鼻腔悪性腫瘍に対する経鼻内視鏡技術の応用、内視鏡科との合同での早期咽頭癌に対する経口的アプローチによる切除術、喉頭摘出後のプロテアーゼ挿入など先進的な医療も積極的に行っている。また、日本臨床腫瘍研究グループ（頭頸部がんグループ）の主要参加施設として放射線・抗がん剤併用療法の治療開発に関わる臨床試験に積極的に参加している。基礎研究に関しては総合医科学研究センター内の分子疫学研究部と協力して 10 年程前からティッシュバンクを作り、臨床検体を保存している。組織から得られる遺伝子レベルの情報と疫学データを使い、頭頸部扁平上皮癌に関する研究を行っている。具体的には発癌に関わるタンパク質のリン酸化解析、遺伝子変異やコピーナンバーならびにメチル化解析を行っている。現在はヒトパピローマウイルスの感染と中咽頭癌の発生機序に関する研究に特に力を入れている。

#### IV. 音声・嚥下機能領域

声帯ポリープ・ポリープ様声帯・声帯嚢胞に対し、全身麻酔下にマイクロフラップ法を用いたラリngo マイクロサージェリーを行っている。また、声帯ポリープ、声帯嚢胞などで、入院の上での全身麻酔下手術が困難な症例に対しては、可能な限り、フレキシブルファイバースコープ下での外来日帰り手術を行っている。

喉頭ファイバー及びストロボスコープ所見のみでなく、手術前後の音響分析・空気力学的検査・Voice Handicap Index (VHI) を用いた比較を行うことにより、手術適応及び術式決定ができるよう検討を行っている。

片側性声帯麻痺に対しては、長年アテロコラーゲンの声帯内注入術による外来日帰り手術を行ってきた。アテロコラーゲンの声帯内注入術の限界と考えられる症例に対しては、喉頭枠組み手術を積極的に行っている。

痙攣性発声障害に対し、ボツリヌス毒素注入術を 2004 年 12 月より大学倫理委員会の承認のもと行っている。症例は増加傾向にあり、診断・治療に関する臨床的検討を進めるとともに、ボツリヌス治療無効例に対する外科的治療も今後の課題である。

嚥下障害の診療は、神経内科、リハビリテーション科などの診療科、および看護師をはじめとするコメディカルと連携し、嚥下内視鏡および嚥下造影検

査などをもとに症例の評価を行っている。

#### V. 睡眠時無呼吸症候群領域

本邦では系統だった睡眠医療教育がシステム化されていないため、睡眠外来には多様な視点での診療、あるいは様々な診療科の知識・技術が必要とされる。慈恵医大では、精神神経科、呼吸器内科と連携し睡眠外来を開設し、睡眠時無呼吸症だけではなくすべての睡眠障害患者に対応している。睡眠障害の中でも睡眠時無呼吸症の診療は、現在、世界的に変革の時期を迎え、いまだ多くの未治療の患者が効率よく医療機関にアクセスし・簡便かつ正確な診断が行われ、患者一人一人の病態を考慮した適切な治療が望まれている。しかしながら、本邦では診療をすすめるにあたってはまだ課題が多く、診断法、治療法とも本邦患者への妥当性の検証をし、診療システムの構築を構築していく必要がある。現在、我々は標準検査法である州やポリグラフ検査に対する携帯装置による診断法の精度検証を、成人・小児に対しておこない、在宅検査による診断法確立を目指している。また治療法では第一選択とされる nCPAP の適応基準のため、上気道所見を含めた nCPAP 継続率検討のコホート調査を行っている。さらに、代替え治療とされる外科治療では、phase1 とされる、鼻、咽頭の軟組織手術、phase2 に位置する顎顔面手術について、低侵襲の新しい手術法の開発、さらに解剖学的視点と呼吸調節の視点から病態を考慮した手術適応基準の作成を太田睡眠科学センターと共同で試みている。また、鼻呼吸の睡眠調節への関連について明らかにするため、睡眠中の Nasal cycle について生理学的実験を、さらにアレルギー炎症の睡眠覚醒調節について基礎実験をスタンフォード大学と共同で研究している。

また、次世代の医療改革の一部として注目されている遠隔睡眠医療について、遠隔睡眠検査、多くの診療科が同時に診療に参加する遠隔診療、診療共有データベース構築、遠隔睡眠医療ネットワーク構築を太田睡眠科学センターと共同で行っている。

2009 年より導入している遠隔睡眠検査は、医療環境が十分でない施設において非常に有用であるため、現在も太田睡眠科学センターで継続して行っている。

#### 「点検・評価」

文部科学省の科学研究費補助金は、合計 10 課題（基盤研究 6 課題、若手研究 4 課題、）が採択された。これらの研究費補助金を基に研究を遂行し、論文投



稿や研究発表など多くの研究業績を残すことができた。また、大阪大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科教室との第2回 OJENT を開催し、各専門班の臨床・研究状況を発表し、活発な議論が行われ今後も学術的な交流を続けていくことを確認できた。

耳科領域の手術に関しては中耳疾患のみでなく側頭骨錐体尖部病変、頭蓋底病変、内耳道病変に対する手術手技の工夫や成績の評価を行った。鼻科領域の手術においても内視鏡下鼻内手術の術式の適応拡大を行い、眼窩底骨折、下垂体手術、鼻・副鼻腔腫瘍や頭蓋底病変なども対象疾患としてみた。頭頸部腫瘍領域では、血管内治療 (Interventional radiology: IVR) の頭頸部癌への応用を行うとともに、化学療法同時併用放射線療法を行い、機能温存を図る工夫も行っている。喉頭・音声領域では日帰り手術としての喉頭疾患への手術の確立を目指している。反回神経麻痺に対するアテロコラーゲン注入術の症例数も増え成績も安定している。また、痙攣性発声障害に対するボツリヌス toxin 注射も良好な症状改善が認められている。睡眠時無呼吸においては、精神神経科、呼吸器内科、歯科などと総合的な診断と治療を行うため、専門外来と PSG のための専用ベッド (2 床) が稼働している。現在は、特に顎顔面形態について画像処理を行い、軟組織と骨組織の点から分析や、鼻閉が睡眠時の無呼吸に及ぼす影響の検討を行っている。

## 研究業績

### I. 原著論文

- 1) 杉野貴明<sup>1)</sup>, 久保木章仁, 中山次久, 大村和弘, 浅香大也, 山口智子, 小島博己, 鴻 信義, 中村亮一<sup>1)</sup> (千葉大). ナビゲーション情報を利用した内視鏡下副鼻腔手術における内視鏡操作の定量分析. 日コンピュータ外会誌 2016; 17(4): 333-42.
- 2) 三瓶紗弥香, 小島博己. 症例をどうみるか 鼓室硬化症よりも耳硬化症の合併が疑われた慢性中耳炎の 1 例. JOHNS 2015; 31(11): 1691-3.
- 3) 谷口雄一郎 (聖マリアンナ医科大学), 和田弘太 (東邦大), 小森 学, 茂木雅臣, 山本和央, 櫻井結華, 鴻 信義, 小島博己. 先天性真珠腫に対する進展度分類の検討. 耳鼻展望 2015; 58(3): 145-52.
- 4) 松田圭二<sup>1)</sup>, 東野哲也<sup>1)</sup> (宮崎大), 小島博己, 小森 学, 山本 裕<sup>2)</sup>, 森田由香<sup>2)</sup> (新潟大), 大田隆之 (聖隷横浜病院), 長谷川賢作 (日本医科大, 鳥取大). 【中耳真珠腫進展度分類の活用法】中耳真珠腫進展度分類 (2010) の実用性評価 施設間比較. Otol Jpn 2015; 25(2): 174-8.
- 5) 吉田由記<sup>1)</sup>, 大前祥子<sup>1)</sup>, 志和成紀<sup>1)</sup>, 秋田英貴<sup>1)</sup>, 鄭 子文<sup>1)</sup> (豊島病院). 甲状舌管嚢胞に合併した乳頭癌の 1 例. 耳鼻展望 2015; 58(3): 164-8.
- 6) 近藤由以子, 今川記恵, 櫻井結華, 宇田川友克, 力武正浩, 小森 学, 谷口雄一郎, 鴻 信義, 小島博己. 両側中等度伝音難聴を伴う構音障害の治療経験. 耳鼻展望 2015; 58(4): 210-6.
- 7) 小泉博美<sup>1)</sup>, 内水浩貴<sup>1)</sup>, 井坂奈央<sup>1)</sup>, 柳 清<sup>1)</sup> (聖路加国際病院). 側頭骨骨折の臨床的検討. Otol Jpn 2015; 25(5): 812-8.

### II. 総 説

- 1) 小島博己, 小森 学. 【中耳真珠腫進展度分類の活用法】真珠腫進展度分類の活用法 将来展望. Otol Jpn 2015; 25(2): 179-82.
- 2) 小島博己. 中耳の Revision Surgery 安全かつ確実な手術のポイント術後乳突腔障害. 頭頸部外 2015; 25(2): 109-13.
- 3) 山本 裕 (新潟大). 【中耳真珠腫進展度分類の活用法】真珠腫進展度分類の活用法 活用の現況. Otol Jpn 2015; 25(2): 160-3.
- 4) 近澤仁志, 小島博己. 【今また結核を見直す】中耳結核. 耳鼻・頭頸外科 2015; 87(9): 724-8.
- 5) 山本和央, 小島博己. 【細胞シート再生医療】鼻腔粘膜上皮細胞シート移植による中耳粘膜再生医療. 細胞 2015; 47(8): 390-3.
- 6) 鴻 信義. 内視鏡下鼻内手術におけるマイクロデブリッターの適切な使い方. 日耳鼻会報 2015; 118(12): 1466-9.
- 7) 鴻 信義. ESS における副損傷とその対応 眼窩損傷を中心に. 頭頸部外 2016; 25(3): 293-6.
- 8) 中島庸也 (東京歯科大). 【上気道疾患と COPD (慢性閉塞性肺疾患)】OSAS と COPD 診断から治療まで 耳鼻咽喉科の立場から. ENTONI 2015; 184: 9-18.
- 9) 山本 裕 (新潟大). 【こんなときの対応法がわかる耳鼻咽喉科手術ガイド】耳の手術耳硬化症に対する手術. 耳鼻・頭頸外科 2015; 87(5): 42-5.
- 10) 中山次久, 広田朝光<sup>1)</sup>, 玉利真由美<sup>1)</sup> (理化学研究所). 【アレルギー疾患のフェノタイプとエンドタイプ】遺伝子解析からみたアレルギー疾患のフェノタイプ. アレルギー免疫 2015; 22(6): 794-800.

### III. 学会発表

- 1) Kojima H. Surgical approach to petrous part of temporal bone using endoscope. 1st World Congress on Endoscopic Ear Surgery. Dubai, Apr.
- 2) Kojima H. (Instruction course 7: Middle ear regeneration) The new technology: canal wall up tympanoplasty with transplantation of tissueengineered

- cell sheets. 30th Politzer Society Meeting. Niigata, June.
- 3) Kojima H. Endoscopic ear surgery for otosclerosis. 4th EES hands on-Seminae in Yamagata. Yamagata, June.
  - 4) Kojima H. (Symposium 7: Middle ear and facial nerve) The new technology: canal up tympanoplasty with transplantation of tissue-engineered cell sheets. 13th Japan-Taiwan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery. Tokyo, Dec.
  - 5) 小島博己. (シンポジウム 14: 神経・感覚器・上皮の再生医療) 難治性中耳疾患に対する再生医療 (ヒト鼻腔粘膜上皮細胞シート移植を併用した鼓室形成術). 第 15 回日本再生医療学会総会. 大阪, 3 月.
  - 6) Otori N. (Instructional course) Endoscopic repair for the orbital wall fractures. 17th Asian Research Symposium in Rhinology. Beijing, Apr.
  - 7) Otori N. (Instructional course) Endoscopic modified medial maxillectomy for maxillary sinus lesions. SGH ENT Instructional Course Fortnight 2015. Singapore, Nov.
  - 8) Otori N. (Instructional course) Complications of FESS. 18th Advanced Sinus Surgery Course 2015. Adelaide, Nov.
  - 9) Otori N. (Special lecture) Image guided sinus surgery and the future. HANA ENT Hospital 20th Anniversary International Symposium. Seoul, Apr.
  - 10) 鴻 信義. (教育セミナー). ESS: 基本手技とその適応, 副損傷の対処法. 第 54 回日本鼻科学会総会・学術講演会. 広島, 10 月.
  - 11) 中島庸也 (東京歯科大). (ワークショップ 1: 睡眠時無呼吸症候群に対する顎矯正手術の適応を考える) 睡眠外科手術の歴史と変遷. 第 69 回日本口腔科学会学術集会. 大阪, 5 月.
  - 12) 飯村慈朗, 高石慎也, 久保木章仁, 大櫛哲史, 浅香大也, 松脇由典, 宮脇剛司, 小島博己, 鴻 信義. 鼻中隔彎曲症における前弯に対する手術. 第 116 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会. 東京, 5 月.
  - 13) 力武正浩, 三瓶紗弥香, 小森 学, 櫻井結華, 坂田英明, 小島博己. (一般演題 口演: 第 12 群 (聴覚検査)) 骨導 VRA での難聴児の骨導聴力評価. 第 25 回日本耳科学会総会学術講演会. 長崎, 10 月.
  - 14) 露無松里, 吉田知彦, 山田裕子, 中島庸也, 鴻 信義, 小島博己. (一般演題 (口演): 第 4 群 咽頭) 閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する CPAP 療法の長期継続率に関する検討. 第 67 回日本気管食道外科学会総会ならびに学術講演会. 福島, 11 月.
  - 15) Nakayama T, Kanaya H, Asaka D, Yamakawa S, Kojima H, Otori N, Haruna S. Prognostic factors for recurrence after endoscopic sinus surgery for chronic rhinosinusitis with nasal polyps. ARS (American Rhinologic Society) 61st Annual Meeting. Dallas, Sept.
  - 16) 小森 学. (シンポジウム 5: ANCA 関連血管炎と難治性中耳炎) ANCA 関連血管炎性中耳炎の臨床像. 第 64 回日本アレルギー学会学術大会. 東京, 5 月.
  - 17) Shimura E, Hama T, Okano S, Suda T, Nagaoka M, Harayama Y, Wada K, Otori N, Kojima H. (Free paper (Oral English) 14: Nasopharynx/Oropharynx) Detection of human papilloma virus infection in neck lymph node metastasis of OPSCC. Joint Meeting of 4th Congress of Asian Society of Head and Neck Oncology & 39th Annual Meeting of Japan Society for Head and Neck Cancer. Kobe, June.
  - 18) Morino T, Yamamoto K, Asaka D, Kojima H. (Paper 3: Otology 2) Management of intractable petrous apex cholesteatoma combined trans labyrinthine-sphenoidal approach. 13th Japan-Taiwan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery. Tokyo, Dec.
  - 19) Isaka N, Chiba S, Watanabe S, Moriwaki H, Onda N. Nasal cycle during sleep. SLEEP 2015 (29th Annual Meeting of the Associated Professional Sleep Societies). Seattle, June.
  - 20) Uno K, Matsuwaki Y, Omura K, Hayashi E, Kita H (Mayo Clin), Otori N, Kojima H. The roles of type 2 innate lymphoid cells (ILC2) in chronic rhinosinusitis (CRS). WAC 2015 (24th World Allergy Congress). Seoul, Oct.

#### IV. 著 書

- 1) 小島博己, 森野常太郎. 第 2 章: 実践編 術式別の術中看護マニュアル (2) 鼓室形成術. 小島博己編. 耳鼻咽喉科の手術看護パーフェクトマニュアル (オペナーシング 2015 年臨時増刊). 大阪: メディカ出版, 2015. p.77-86.
- 2) 鴻 信義. 4 章: 耳鼻咽喉科の救急医療と看護 1. 外傷・出血 2) 鼻・副鼻腔の外傷・出血. 森山 寛, 小島博己編. 耳鼻咽喉科エキスパートナーシング. 改訂第 2 版. 東京: 南江堂, 2015. p.264-7.
- 3) 志和成紀. 第 2 章: 実践編 術式別の術中看護マニュアル (8) 口蓋扁桃摘出術, アデノイド切除術. 小島博己編. 耳鼻咽喉科の手術看護パーフェクトマニュアル (オペナーシング 2015 年臨時増刊). 大阪: メディカ出版, 2015. p.129-38.
- 4) 飯村慈朗. 第 1 章: 鼻腔・鼻翼の手術 5. 蝶口蓋孔へのアプローチ. 森山 寛, 春名眞一, 鴻 信義編. 内視鏡下鼻内副鼻腔手術: 副鼻腔疾患から頭蓋底疾患

まで。東京：医学書院，2015. p.86-90.

- 5) 小森 学，小島博己. I. 耳領域 C. 慢性中耳炎 3. 真珠腫性中耳炎に対する鼓室形成術のエビデンスとは？池田勝久（順天堂大），武田憲昭（徳島大），香取幸夫（東北大），原測保明（旭川医科大），丹生健一（神戸大）編. EBM 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の治療 2015-2016. 東京：中外医学社，2015. p.51-3.

## V. その他

- 1) 小島博己. (招待講演) 鼻粘膜上皮細胞シートを用いた難治性中耳炎に対する手術. 文部科学省イノベーションシステム整備事業 先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム「再生医療本格化のための最先端技術融合拠点」第8回シンポジウム「細胞シート 2015 CSTE10 年の拠点形成と技術革新の歩み」. 東京，11 月.
- 2) 鴻 信義. (実技講習 9) 内視鏡下鼻副鼻腔手術の基本手技. 第 29 回日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会. 札幌，12 月.

## 麻 酔 科 学 講 座

- |           |   |
|-----------|---|
| 教 授：上園 晶一 | 小児麻酔，心臓血管外科麻酔，肺高血圧の診断と治療                    |
| 教 授：近江 禎子 | 区域麻酔  |
| 教 授：下山 直人 | がん性痛の機序の解明と治療法の開発（臨床，基礎研究）                  |
| 教 授：木山 秀哉 | 静脈麻酔，困難気道管理，麻酔中の脳波，周術期危機管理，麻酔を支える自然科学       |
| 教 授：坪川 恒久 | 成人心臓麻酔，薬物動態，脳機能                             |
| 准教授：下山 恵美 | 緩和医療学                                       |
| 准教授：瀧浪 将典 | 安全管理，モニター，集中治療                              |
| 准教授：北原 雅樹 | 疼痛管理  |
| 准教授：藤原千江子 | 呼吸，モニター                                     |
|           | (厚木市立病院に outward)                           |
| 准教授：近藤 一郎 | 脊髄における疼痛機序，術後疼痛管理                           |
| 准教授：三尾 寧  | 麻酔薬の臓器保護作用                                  |
| 准教授：鈴木 昭広 | 気道管理，ポイントオブケア超音波，医療安全                       |
| 准教授：内野 滋彦 | 集中治療，急性腎傷害，血液浄化                             |
| 講 師：谷口 由枝 | 周術期における体温管理，周術期麻酔管理におけるアウトカムリサーチ            |
| 講 師：庄司 和広 | 術後疼痛管理                                      |
| 講 師：鹿瀬 陽一 | 集中治療，エンドトキシン，蘇生教育，シミュレーション医学教育              |
| 講 師：小島 圭子 | ペインクリニック，疼痛治療全般，特に慢性疼痛・がん性疼痛，がん治療に関連する痛みの治療 |
| 講 師：肥田野求実 | 局所麻酔  |
| 講 師：久保田敬乃 | 局所麻酔，緩和医療                                   |
| 講 師：須永 宏  | 筋弛緩薬  |
| 講 師：照井 貴子 | 循環生理  |
| 講 師：木田康太郎 | 蘇生後脳障害に対する治療法の開発，吸入ガス，虚血再灌流障害               |